

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇高等学校

〇〇科 〇〇 〇〇

【実践該当クラス・科目】

該当クラス：1年〇〇〇科 該当科目：ビジネス基礎（2単位）

【授業実践・授業公開を終えての感想および指導観】

今年度、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行い、多くのアドバイスをいただいただけでなく、自分自身のこれまでの授業スタイルと真剣に向き合うことができた。その中での感想や気づいた点を、以下のとおりまとめた。

まずは基礎学力・知識をしっかりと定着させること。

当初、「主体的・対話的で深い学び＝アクティブ・ラーニング」と位置付けてしまい、とにかく生徒に課題を与えて話し合わせ、意見を出させる授業方法に執着してしまった。その結果、話し合うことが目的となってしまう、知識の定着に結びつけることができなかった。授業のゴールイメージを示すためにも、單元ごとの到達地点（めあて）とその道筋を明確にして、学習内容を定着させることで、より深い学びが実現するのであると感じた。

日頃から「考える習慣」と「定着させる場面」を与えること。

これまでご指導いただいた中で、最も印象に残っているのは、「なぜ？（疑問）」と「わかった！（理解）」が授業の中で生まれ、それが生徒の中でリンクされているかということである。

スマートフォンの普及により、わからないことがあれば、検索サイトで調べるのみで、知識として「蓄積」されていない状況にあると感じている。過去の記憶をたどることなく、すぐに答えを導き出すことができてしまうがゆえ、「気付き」に鈍感となってしまうがちである。だからこそ、日頃の授業の中で「なぜ？」という考える行動の習慣付けて、しっかりと自分の知識として定着させなければ、主体的な学びは実現しないと思った。

生徒の実態に応じた題材のセレクトにより、より深い学びが実現する。

動画共有サイトの普及により、リアルとバーチャルの逆転現象が起きているようにも感じる。環境の変化により、様々な実体験の機会が奪われている今日において、生徒にとっての「身近」とは何なのかを、日頃から考えるようになった。特に商業という教科の特性上、身近な題材を取り上げやすい。生徒にとって題材が身近であれば、学びは深化し、充実度は高まる。だからこそ、常に生徒が何に対して興味を持っているのかというアンテナを張り巡らせ、授業外での生徒との対話も大切にすることで、よりよい授業が創造できると感じた。

何よりも「学ぶ目的」をしっかりとさせること。

商業とは「実学」であると、これまでも多くの先生方に教わってきた。自身のキャリアプランを見出し、自分にとって必要な知識であることを認識すれば、自ずと学習意欲も高まっていくはずである。AIの発達により、人間の仕事が限られてくるかもしれない。だからこそ、自身の可能性と自分にしかない価値を発見するために、「今何を学ぶべきか」ということを理解させていきたい。

【おわりに】

今年度、主体的・対話的で深い学びの授業実践および公開授業をさせていただき、多くの先生方からアドバイスをいただくことができた。深く感謝したい。この経験をもとに、今後も授業研究に努め、生徒の資質・能力の向上の一助となるよう、取り組んでいきたい。